

Title	ヒッグス版カンチロン著 商業一般の本質論
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1934
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.28, No.7 (1934. 7) ,p.1077(111)- 1084(118)
JaLC DOI	10.14991/001.19340701-0111
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19340701-0111

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(28) E. Talon et G. Maurice, *Législation sur le travail des enfants, etc.*, 1875, p.p. 9-12.

附記

本稿は現慶應義塾經濟史學會の未だ成立途上にありし頃の小さな集ひの席上に於ける筆者の報告内容の一部である。現在同學會の愈々隆盛なるにつけ、種々なる意味から成立當初の頃の事が懐しく思はれてならない。謂はゞ其の想ひ出のよすがにもと篋底深く埋れて居つたノートに加筆修正を加へて成れるもの即ち本稿である。

野村同學會々長の御示教は固より、斯方面の研究に於ける先學高村象平氏より貴重なる文獻の貸與を忝うしたこと、茲に併せ記して深謝の意を表し度い。

尙本稿は最初佛蘭西兒童勞働法の成立と其の批判に迄及ぶ積りであつたが、成立及び批判の部を他日に譲ることとした。讀者幸に諒せられたし。

一九三四・五・一七

ヒックス版カンチロン著「商業一般の本質論」

高橋誠一郎

幾多の「神秘」に包まれてゐる「經濟學者の經濟學者」(the economist's economist)リチャード・カンチロン(Richard Cantillon)の名著にして、「經濟學の搖籃」(the cradle of political economy)たる *Essai sur la Nature du Commerce en Général* が、ヘンリー・ヒックス氏(Henry Higgs)の手に新輯せられて、一千九百三十一年に出版せられたことは、經濟學說史の研究者に取つて大なる喜びである。此の新版には偶數頁の原文に對して、周到なる注意の下に行はれた英語全譯が奇數頁に組込まれてゐる。而して編纂者ヒックス氏は、原著者カンチロンに関する多年の蘊蓄を傾注して、其の卷末に *Life and Work of Richard Cantillon* を掲げてゐる。本書は洵に原著述作の二百年を紀念する絶好の出版物であつた。吾人は今、約三ヶ年を隔て、此の新版を紹介し、以つて無殘の最期を遂げたる原著者の死後二百年に手向けることとする。

幾多の公事に忙はしかつたりリチャード・カンチロンは、一千七百三十四年五月十三日(月曜日)、終日、馬車を驅つて、ミッドル・テンブル法學院及び其の他の場所を訪れ、夜の十時にアルビイマイル街の邸宅に歸り、十一時頃常の如く居間に於いて自ら衣服を脱ぎ、蠟燭と書籍とを携へて、直ちに床に就いた。彼れは床の中で、凡そ三時間

ヒックス版カンチロン著「商業一般の本質論」

一一一 (1077)

位も讀書するのを常習とした。然るに、翌火曜日の午前三時半頃、彼れの邸宅の燃え上がつてゐるのが發見せられた。火勢頗る烈しく、彼れの邸宅と隣接のセント・ジョーン子爵邸とは水の來ぬ間に焼け落ちてしまつた。カンチロン家には三人の従僕と二人の下婢とが居つたのであるが、犠牲と爲つた者は彼れ一人であつた。廳がて、彼れは放火以前に慘殺せられたことが明かと爲つた。彼れの屍體は灰と化してゐた。焼跡からは貨幣、貴金屬及び寶石の類は全然發見せらるゝことがなかつた、炎上前に盜奪行爲の行はれた形跡が歴然として居つた。未亡人が巴里から到着したのは、六月五日の晩であつた。僕婢等は殺人の嫌疑を以つて拘引せられ、オールド・ベリーイ(倫敦の中央刑事裁判所)に於いて審問を受けたが、五時間の後に放免せられた。眞犯人は十一年間料理人として使傭せられ、犯罪の約十日前に解雇せられたルバン(Lebane)事、本名ジョゼフ・ヅニエ(Joseph Denier)なる佛蘭西人であると推定せられた。彼れは和蘭に赴くが爲めに、エッセックスの海港ハーウィッチ(Harwich)に逃れたのであるが、郵便船の出帆に間があつたので、八ギニイを漁夫に與へ、漁船に乗じて逃亡した。

稿本のまゝになつて居つたカンチロンの貴重な著作は頗る多かつたと傳へられてゐるが、是れ等のものは此の大慘劇に由つて其の著者と共に亡びて了つたらしい。然るに、ミラボオ侯爵(Marquise de Mirabeau)の言に據れば、著者が最初英語を以つて草し、後、其の佛國の一親友の爲めに、自ら佛語に翻譯し、未だ其の補遺を翻譯するに至らなかつた *Essai sur la Nature du Commerce en général* のみが世に傳つた。ミラボオ侯爵は、其の寫本を十六年間所藏して居つたが、遂に之れを其の正當なる所有者に復歸せしむるの已むなきに至つた。(而も其の正當なる所有者が何人であつたかは今日では不明である。cf. p. 383.) 今日に傳はる此の著の版本は、這般の寫本から印刷に附せられたものである。

本書の最初の出版たる一千七百五十五年版の題號頁は、著者の名を署せず、英語よりの翻譯なることを明示し(*Traduit de l'Anglois*)、而して其の出版者を倫敦ホルボーンのリッチャー・ガイルズと記してゐる(A. Londres, Chez Fletcher Gyles, dans Holborn)。第十八世紀の初期に於いて、ホルボーンのミッドル・ロー附近に店舗を有して居つたリッチャー・ガイルズと云ふ有名な書肆の存して居つたことは事實であるが、同書肆は、一千七百三十六年の頃には、ガイルズ及びウィルキンソン(Gyles and Wilkinson)と其の名を改め、而してリッチャー・ガイルズは、一千七百四十一年に中風で死んでゐるのであるから、彼れの單獨なる姓名が一千七百五十五年に刊行せられた書の題號頁に記さるゝが如きは殆んどあり得ざることである。加之、一千七百三十七年以後に於いてはホルボーンの書店で出版せられた書籍のあることは録されてゐない。(Nichol, *Literary Anecdotes*, vol. II, p. 116.) 此の書は事實巴里に於いて出版せられたのであるが、恐らく憚る所があつて、其の出版地を倫敦と記したものであらう。其の活字、紙質及び體裁より觀て、本書は英國に於いて出版せられたものではないと考へられてゐる。ジエヴォンズ教授は大英博物館の老巧なる兩圖書學者の鑑定に據つて、本書は恐らく巴里に於いて出版せられたものであらうと述べてゐる。(W. Stanley Jevons, *Richard Cantillon and the Nationality of Political Economy—Contemporary Review*, January 1881.—*Essai*, ed. by Higgs, p. 341.) 尙ほ此の版本が其の卷末に *Catalogue des Livres, Qui se trouvent chez Barrois, Quai des Augustins*. 十一頁を附し、而して其の第三頁に *Essai sur la Nature du Commerce, par*

M. de C. . . . 2 l. 10 s.

を加へて居るに徴して、其の眞の出版者がバルロア(Barrois)であることは殆んど疑ひのない所であらう。(ヘンリ

ヒイッダス氏は是れ迄本書を十餘部手にしたが、右の出版目録は、フックスウェル教授(H. S. Foxwell)の所蔵本以外には見出さなかつたと云つて居られる。(p. 318)。然しながら、余が先年ヘラーズベルク(Dr. Hellersberg)書店を通じて購入した原装釘の極めて良く保存せられてゐるカール・ビットナー博士(Dr. Karl Bittner)の舊蔵本も亦、此の十一頁の目録を保有してゐる。但し、慶應義塾図書館は露國參謀本部図書館の舊蔵本を所蔵してゐるが、是れには右の目録は附せられてゐなす。

カンチロンの著書は其の出版以前に於て早く、ポストルスウェイト(Malachy Postlethwayt)によつて其のA Dissertation on the Plan, Use and Importance of the Universal Dictionary of Trade and Commerce, translated from the French of... Mons. Savary [Jacques Savary des Brulons] with Additions, 1749. 中其の凡そ六千語を収録せられた。而して彼れの The Universal Dictionary of Trade and Commerce, vol. I. 1751; vol. II. 1755, fol. 4th ed. 1774. 中に於ける數多の項目は、本書よりの抜萃を包含してゐる。ヒイッダス氏は是れ等兩著の主要なる類似の對比を行つてゐる。(p. 390—Appendix A.)。彼れは亦、其の Great Britain's true System, etc. 1757. 中にも、カンチロンの著の一定部分を平然含有せしめてゐる。ポストルスウェイトは、恐らくカンチロンが英語で書いた原文を、彼れの前に開いて居つたのではあるまいかと想像せられる。

倫敦のアゼニウム俱樂部(The Athenaeum Club)の司書をして居つた故テッダ(H. R. Tedder)は、本書の英語原文が事實前記フレッチャー・ガイルズによつて、カンチロンの生前に出版せられて居つたことを信じて疑はなかつた。而も、果して本書が英語を以つて印刷せられてゐたとするならば、そは何故に全然消滅して、之れを舉示する一の著者も批評家も存しなかつたのであらうか、洵に疑はしい次第である。(p. 384)。エドウィン・キャナン(Edwin Cannan)教授は、本書の用語を以つて、英語を自國語とする著者によつて佛語を以つて書かれたか、若しくは初め英語を以つて書かれ、而して後、其の英國の著者、又は或る他の英語に通ずる人によつて佛語に翻譯せられたかの何れかであつたことを直ちに示唆する部類の佛語であると做してゐる。(A Review of Economic Theory, 1929, p. 19)。

本書は翌一千七百五十六年を以つて翻刻せられ、更らに又、同年、重農主義者ヤコブ・モーヴィオン(Jakob Mauvillon)の父エレアツル・モーヴィオン(Eleazar Mauvillon)によつて行はれた集輯の第三卷中に百五十一頁から四百三十四頁に互つて、複製せられた。本集の第一卷は一千七百五十四年を以つて出版せられた Discours Politiques de M. David Hume, traduits de l'Anglois par M. de M. (Mauvillon). と題するヒームの「政治論集」の翻譯であり、同五十六年の第二卷及び第三卷は Discours Politiques. と題し、佛著の翻刻を収録する。而して同五十九年には著者の血族フリッポ・カンチロンの纂譯 The Analysis of Trade, Commerce, Coin, Bullion, Banks and Foreign Exchange. が上梓せられた(本書の全表題は昭和七年版拙著「重農主義經濟學說研究」四二九—四三〇頁に掲げられてゐる)。

一千七百六十七年にはスコットニイ(F. Scottini)の序文を附せられた此の書の伊太利亞譯が Saggio sulla Natura del Commercio in Generale. と題して、ヴェネチアに於いて出版せられた。而して一千八百九十二年には、其の複製版がヒイッダス氏の緒言を附して、ハーヴァード大學の爲めに出版せられた。獨逸譯は維納のハイエック博士(Dr. F. A. Hayek)夫人ヘラ(Frau Hella Hayek)によつて行はれ、六十六頁に互る其の良人の序文を添へて Abhandlung über die Natur des Handels im allgemeinen. と題して、一千九百三十一年、エナに於いて刊行せられた(cf., pp.

VII-VIII)。

カンチロンは彼れの時代直後に於ける經濟思想の指導者等の上に深甚なる影響を及ぼした。重農學派の開祖フランソワ・ケネー(François Quesnay)は「大百科全書」(Grande Encyclopédie)の一千七百五十七年版第七卷に登載せられた一項「穀物」(Les Grains)に於いて、カンチロンによつて承認せられたる「根本的諸真理」を掲げて、其の *Essai sur le Commerce*, chaps. V, VI. を引き(Ibid., p. 821.)。總がて又、其の主著 *Tableau Oeconomique*, 1758. に對する多大なる示唆を是れより受けた。ミラボー侯はカンチロンの著を基とし、其の措辭を修正し、彼れ自身の註釋を加へた一書を著さんことを企圖したのであるが、其の意向を貫徹し得るに先立つて、カンチロンの寫本は其の正當なる所有者によつて取戻されて了つた。此の正當なる所有者は之れを其の儘印刷に附した方が良いと考へたものと思はれる。ミラボーは其の評釋を敷衍して、一千七百五十六年 *L'Ami des Hommes, ou Traité sur la population*. を公にした。而して彼れは此の書の第一卷の第二章及び第七章並びに其の他の各所に於いてカンチロンを引用してゐる。シ・ブーネー(Jean Claude Marie Vincent de Gournay)は此の「閑却せられた良書」を其の知人に推薦した。(Mémoires inédits de l'Abbé Morellet, t. I, 1823, pp. 37-38.)。而して *Œuvres de Turgot*, Nouvelle édition par M. Eugène Daire, 1848, t. II, p. 819.)。 *Œuvres de Condillac* (Collection complete des Œuvres de l'Abbé de Mably, 1789, t. V, p. 169; t. VI, pp. 311-328.)。 *Œuvres de Condillac* (Œuvres, 1803, t. VI, p. 141.)。 *Œuvres de Morellet*, Mémoires, op. cit., p. 33.)。 *Essai analytique sur la Richesse et l'Impôt*, 1767, p. 365.)。 *Œuvres de Adam Smith*, *Wealth of Nations*, Bk I. cap. 8.)。 *Œuvres de Arthur Young*, *Political Arithmetic*, Pt. II, 1799, p. 29.)。 *Œuvres de Stewart*, *Works*, 1805, vol. III.

p. 22.)。 *Œuvres de J. P. Graumann*, *Gesammelte Briefe von dem Gelde*, 1762, S. 144.)等によつて引用せられてゐることはヒックス氏の舉示せるが如くである。(pp. 391-2)。

然しながら近代に至つて、時代の砂の中に埋れたカンチロンを發掘したものはウィリアム・スタンリー・ジェヴォンズ(W. Stanley Jevons)であつた。彼れは一千八百八十一年 *Contemporary Review*. の一月號に *Richard Cantillon and the Nationality of Political Economy*. を寄せて、此の發見を公表した。(此の論文は、一千九百〇五年、ヒックスの緒言を附して出版せられたジェヴォンズの遺稿 *Principles of Economics*. 並びに本ヒックス版 *Essai* の三百三十三頁以下三百六十頁に再刻せられてゐる)。其の後、カンチロンが再び忘却せられて、ジェヴォンズの努力が無効に歸せんとした時、フォックスウェル教授の講義によつてカンチロンに對する興味を喚起し、彼れに關する研究を進め、一千八百九十一年六月の *Economic Journal*. 誌上に於ける論稿 *Richard Cantillon*. 一千八百九十二年 *Quarterly Journal of Economics*. 第六卷に於ける論稿 *Cantillon's Place in Economics*. 前掲ジェヴォンズの *Principles* 緒言、及び一千八百九十七年版の *The Physiocrats*. 中に於いて之れを發表したものがヒックス氏であつた。而してハーヴァード大學教授ダンバー(C. F. Dunbar)から相談を受けて、前記九十二年の複刻を計つたものも亦、彼れであつた。而して劍橋のアルフレッド・マーシャル教授が其の *Principles of Economics*. の初版に於いて、恐らくはジェヴォンズに對する反抗心から、——ヒックス氏は斯う解してゐる——カンチロンを以つて、鋭敏にして、或る點に於いては、彼れの時代に先立てるものではあるが、堅實に於いて缺くるの觀があると評した時。(Ibid., p. 53 p.)。敢然之れに抗議せる者も亦、彼れヒックス氏であつた。(p. 387.)。氏のカンチロンに傾倒するの尤なる、以つて知る可きである。吾人は今、此の不幸なる金融業者の偉大なる遺著が、此の絶好の編纂

者の努力によつて、二百年の後に新装出世して學界を恵むと共に、故人の靈を慰め得たることを深く喜ぶものである。

國民社會主義(ナチス)文獻

加田 哲 二

小 引

六月十二日から同十五日に涉つて、慶應義塾圖書館ではナチス文獻展覽會を開催した。同展覽會は非常に盛會であり、殊に駐日ドイツ大使も來館從覽せられたほどであつた。ナチス文獻はいま決河の勢をもつて、ドイツ出版界に溢れてゐる。現に、ナチス文獻錄の如きも筆者の知る範圍では次の二つのものがある。

- H. de Vries de Heekelingen, Die nationalsozialistische Weltanschauung. Ein Wegweiser durch die nationalsozialistische Literatur. Berlin 1932.
Walter Sagitz, Bibliographie des Nationalsozialismus. Coburg 1933.

前者は項目分類ともに、比較的整つてゐて、ある問題に關する検索には甚だ有益なものであるが、遺憾なことには、ナチス文獻洪水以前の著作である。従つて最近の文獻については、少しも、記することが出来なかつたのは當然である。一九三二年以前のものに對しては甚だ有益であり、且つ諸書からの短い引用なども示されてゐる。後者は一九三三年の著作で、收録文獻數は、前者に優ること數等であるが、單なるナチス文獻の著者ABC順の配列に過ぎず、ナチス研究の案内書としては、あまり有益とは思はれない。いま「ナチス展覽會」の目錄をこゝに印刷に附するのは、以上二つの獨逸文獻目錄の短を補ひ、日本において、ナチスを研究せんとする人の便利を計らうとするためである。